

**令和6年度卒業時満足度調査(対象:令和7年3月卒)**

アンケート実施日: 4年生向け成績発表時2025年2月

**【1】 学科別回答数**

[単位:人]

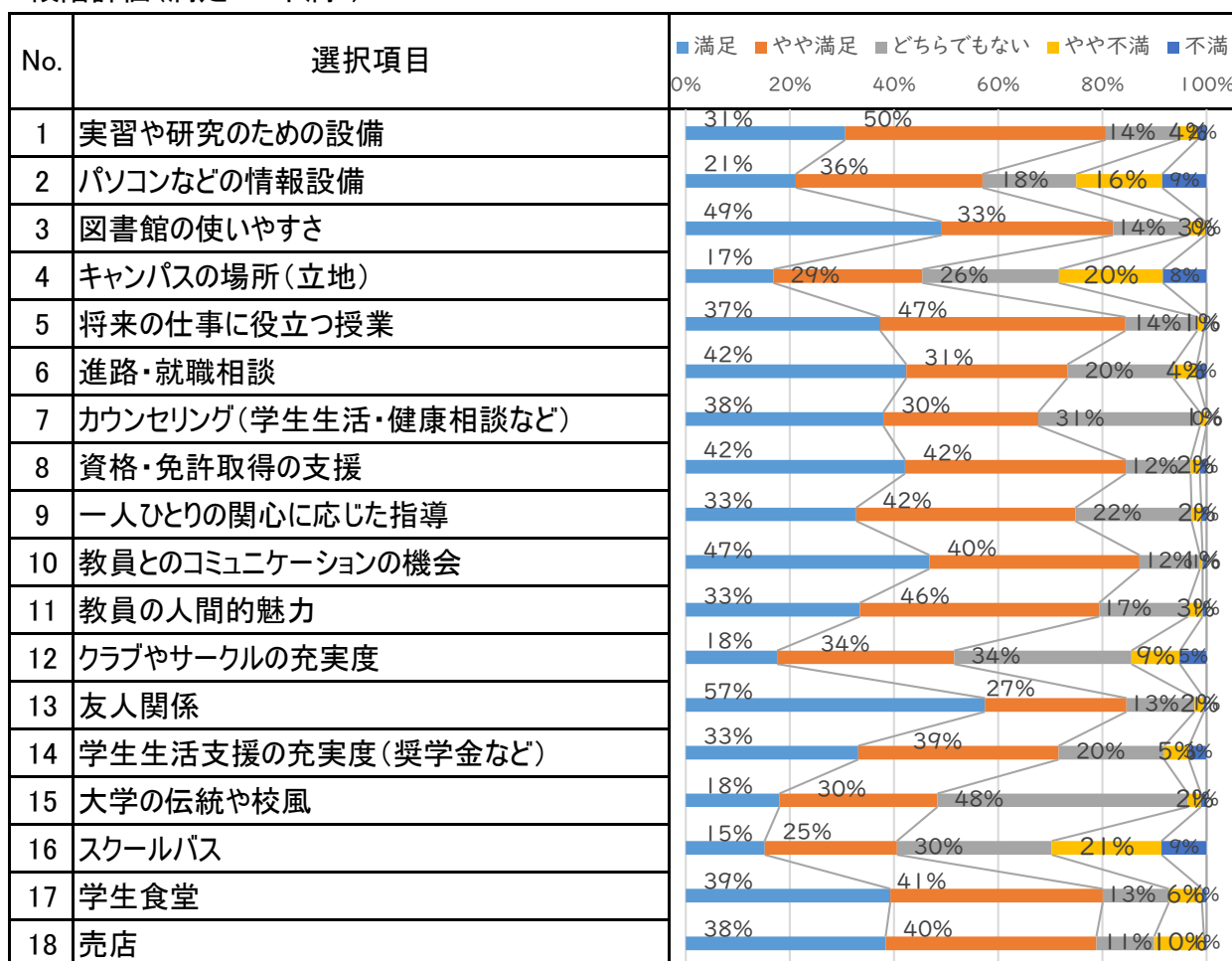
| 学科          | 回答数 | 回答率    |
|-------------|-----|--------|
| 健康栄養学科      | 73  | 100.0% |
| 社会福祉学科      | 32  | 78.0%  |
| スポーツ健康福祉学科  | 35  | 87.5%  |
| リハビリテーション学科 | 51  | 87.9%  |
| 子ども学科       | 70  | 85.4%  |
| 心理カウンセリング学科 | 43  | 91.5%  |
| 看護学科        | 85  | 93.4%  |
| 合計          | 389 | 90.0%  |

| 卒業数 |
|-----|
| 73  |
| 41  |
| 40  |
| 58  |
| 82  |
| 47  |
| 91  |
| 432 |

**【2】 4年間の大学生生活を振り返り、満足している点、不満がある点**

※「利用していない・参加していない」と答えた学生を除き、グラフ化しています。

5段階評価(満足5⇔不満1)



令和 6 年度 卒業生アンケートに関する  
相互評価による指導・助言の為の  
自己評価報告書

令和 7 (2025) 年 9 月

西九州大学

## ◆卒業生アンケートの活用

## 視点① 学生による卒業生アンケートの実施

## 視点② IR 業務を担当する者による分析

## 視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック

## 1. 事実の説明及び自己評価

## 視点① 学生による卒業生アンケートの実施

本学では、「卒業時満足度アンケート調査」という名目で、4 年次生の成績発表時（2 月）にアンケート調査を実施する。調査方法は、Microsoft Forms を活用した Web 調査方式で行っている。調査項目は、選択式が 19 項目、自由記述式が 2 項目となっており、設問内容は大学の施設・設備、授業内容、進路支援、人間関係、サークル活動等多岐にわたる。アンケート実施に際し、「本調査は、4 年間の振り返りとして、強みや課題を抽出することを目的として調査を実施することで、可能な限り今後の大学運営に反映していきたいと考えていますので、思ったことを率直にご記入頂きますようお願いいたします。なお、この結果は、今後の大学運営の基礎情報として活用させていただきます。」と調査目的を明確に示している。令和 6 年度の西九州大学全体のアンケート回答率は 90.0%（回答者 389/432 名）であった。

（参考）

|         | 調査方法            | 回答期間    | 回答率   |
|---------|-----------------|---------|-------|
| 令和 4 年度 | Microsoft Forms | 成績発表時のみ | 86.3% |
| 令和 5 年度 | Microsoft Forms | 成績発表時のみ | 94.5% |

また、調査結果は 3 月上旬に開催の学長と卒業予定者との懇談会において、意見交換の際の資料として活用している。調査結果は、9 月末までに本学ホームページにて公開する予定である。

## 視点② IR 業務を担当する者による分析

調査結果は項目ごとに簡潔にまとめられており、学長と卒業予定者の懇談会用資料として活用されている。懇談会には、学長、副学長、事務局長、教務部長、学生支援部長、教務課長、学生支援課長、学生支援課員が出席しており、在学生在がより良い学生生活を送れるよう、ハード面とソフト面の両面から学生支援の改善を図るための貴重な資料となっている。

回答率は令和 6 年度調査が 90.0%となっており、直近 3 年の平均回答率(90.3%)並みである。コロナ禍以前は後期ガイダンス時に学生ポータルサイトのアンケート機能にて調査を実施しており、当時の回答率が 30～40%だったことを考えると、成績発表時に一斉に Forms を使った調査を実施したことにより回答率が大幅に改善したことは評価できる。

調査結果に目を向けると、「友人関係」や「教員とのコミュニケーションの機会」、「教員の人的魅力」について肯定的な評価が目立つ。学生募集の際に「面倒見の良い大学」と謳っているが、この満足度調査からもその結果をうかがい知ることができる。一方評価が低かった項目として、「キャンパスの場所（立地）」、「スクールバス」が目立っており、通学が不便だと感じる学生が一定数いる。「クラブやサークルの充実度」についても低評価と

する学生が多く、サークル数の充実及び学部・学年を越えての交流を積極的に行える環境改善が求められる。

IRを担当する立場からは、80%を下回る回答率の学科があるため、回答率を向上するための工夫について、また、懇談会の記録を教授会等の場で教職員へ広く共有することについて担当部署へ求めたい。

### 視点③ 卒業生アンケート分析結果のフィードバック

令和4年度及び令和5年度の調査結果は、在学生卒業時調査結果という形で大学のホームページに掲載し公表している。また、学長と卒業予定者との懇談会において、一部の学生には公表しフィードバックを行っている。

## 2. 改善・向上方策（将来計画）

大学全体の回答率は90.0%と高いものの、社会福祉学科は78.0%であり回答率を向上させる具体的な改善策を検討したい。また、通学に関することとクラブ・サークルに関する評価が低いため、学生からの聞き取り結果を学内で広く適切に共有し、より良いキャンパスライフが送れるよう、教職員だけでなく学生や後援会、同窓会と協力する等の取組みも検討する必要がある。

卒業時満足度調査は、学生の声聴きだす大変貴重な機会となっているため、時代や実情にあった設問項目の見直しを行いながら継続的に実施したいと考える。

## 3. 関連資料

### （1）令和6年度卒業時満足度調査